

令和 2 年 7 月 8 日現在

機関番号：32693

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H05582

研究課題名(和文)慢性疾患をもつ人々への多職種で実践する日本型アドバンスケアプランニングモデルの構築

研究課題名(英文)Development of a Japanese style advance care planning model for people with chronic illnesses to be practiced by interdisciplinary care providers

研究代表者

守田 美奈子(MORITA, Minako)

日本赤十字看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50288065

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：慢性疾患(心不全、呼吸不全、腎不全)を持つ患者は経過が長く、病状予測が困難であるためACPの実践には課題が多い。ACPケアモデル作成のために、慢性疾患に関わる医師、看護師等831名を対象にしたアンケート調査および39名への医師、看護師への面接調査を実施した。その結果、慢性の病いの体験理解と対話、最後の治療選択だけでなく生き方の選択、患者、家族のニーズに即し職種の特性を生かしたり、死を語ることへの躊躇と関係性の中での意思決定、の4要素によるケアモデルを作成した。さらに3領域のACP実践ガイドブックを作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本では高齢者や終末期等に対するACPの報告はあるが、慢性疾患患者を対象にしたACPの実践に関する研究は少ない。その人らしく生きることを支えるACPの考えを基軸に、家族や医療チームとの関係性の中で共に考え決めていく意思決定を実現する今回のケアモデルは、慢性疾患患者と家族の特性に応じたACPのケアモデルであると考えている。さらにガイドブックは、多くの専門家の意見に基づき作成したものであるため、日本でACPを実践する上で有用であり、実践面だけでなく医療者への教育など教育的な意義もあると考える。

研究成果の概要(英文)：Patients who have chronic illnesses (cardiac insufficiency, respiratory insufficiency, and/or renal insufficiency) suffer a prolonged progress with the development of an illness difficult to foresee. Implementing ACP, therefore, will involve a number of challenges. We conducted a survey targeting doctors and nurses, 831 in total, as well as interviews with 39 doctors and nurses who are working on chronic illnesses treatment. We created a care model based on the four elements identified by the survey and interviews: 1) Care providers' understanding of the experiences of chronic illnesses and dialogue with the patient; 2) patients choosing how to live not just choosing the type of final treatment; 3) the appropriate professional takes the lead depending on the needs of the patients and their families; and 4) initial hesitation to talk about death then decisions are made with trusted relationships. We also created a practical ACP implementation guidebook covering the three fields.

研究分野：緩和ケア

キーワード：ACP 慢性疾患 多職種連携 日本型 アドバンス・ケア・プランニング

## 1. 研究開始当初の背景

日本ではがん患者の終末期医療における意思決定の支援については認知・普及が進み、高齢者の終末期医療についても人工的水分・栄養補給の導入や差し控え、中止などについて2007年厚生労働省により「終末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」が作成されている。その後も日本救急医療学会(2007年)、日本医師会(2008年)、全日本病院協会(2009年)、日本小児科学会(2012年)、日本老年医学会(2012年)が各々に、終末期医療のガイドラインを定めている。一方、慢性疾患を持つ人々も増えており、多くの人々が慢性疾患をもちながら長い経過の中で病態の漸進的な悪化と回復を繰り返し、その途上で治療やケアに関する数多くの選択を行うことになる。なかでも心不全、腎不全、呼吸不全等の重篤な慢性疾患をもつ人々は、急性増悪を繰り返し回復するというパターンをたどることが多い。このパターンを繰り返す中で、意思の確認が不十分なまま救急搬送されICUでの治療を受けながら死に至るなどのケースも多い。特に高齢者は慢性疾患を重複して抱えることも多く、臨床現場では、このような人々に対し、いつ、どのようにして患者や家族の意思を確認すればよいのか、死に際しての問題をどのように話し合えばよいか等、多くの実践課題を抱えている。日本では、今日においても家族の意思が優先される等、意思決定の在り方に関して諸外国とは異なる現状が見られる。

そこで、ACPという観点から重篤な慢性疾患を抱える人々は、どのような医療やケアを受けたいのか、患者や家族の意思決定をどのように支援し、それを実現していくか、日本に適したケアモデルの構築が必要と考えた。

## 2. 研究の目的

本研究は、重篤な慢性疾患(慢性心不全・慢性呼吸不全・慢性腎不全)をもつ人々が人生の終焉の時期を自分らしく生きることができるよう、今後の治療や療養について医療者と患者・家族が共に話し合い、自分の意思で決められるケアを実現するために、日本の文化や人々の価値観に適した多職種で実践する日本型アドバンスケアプランニング(ACP)のケアモデルを構築することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) ACPの実態調査

慢性疾患(腎不全、呼吸不全、心不全)に関するACPの実態と実践課題を把握する目的で、国内外の慢性疾患に関わる専門家(医師、看護師、理学療法、事務職)へのフィールド及びインタビュー調査、及び慢性疾患分野の医師、看護師を対象とした郵送法による質問紙調査を行った。

### (2) ガイドブックの作成と専門家へのインタビューを介したケアモデルの構築

(1)の調査結果をもとにケアモデルの検討を行った。ケアモデルに基づいた実践を展開するために、ACPの定義や基本的考え方、慢性疾患におけるACPの特徴とチーム医療に関する記述を3領域に共通する内容として記述した。3分野の各病気ごとに、病気の経過と特徴、各病気におけるACPの実践方法(開始時期、留意点、職種間連携等)を記述した。各病気毎に共通編と各病気編の2部で構成するACPガイドブック案を作成した。慢性疾患患者の治療やケアに関わる専門家から各ガイドブック案に関する意見を聴取し、それを踏まえてガイドブックの修正を行った。さらにガイドブックを用いた実践への応用やACPのあり方に関して専門家からの意見聴取を踏まえてケアモデルの検討と構築を行った。

## 4. 研究成果

### (1) ACPに関する実態調査その1：国内外の関係者へのインタビュー調査結果

医療者へのインタビュー結果：文献検討から ACP に関する研究や実践報告をしている医師 6 名、看護師 11 名、理学療法士 1 名、事務職 1 名、合計 19 名から協力を得た。その結果【ACP の意味】、【実践のタイミング】、【実践方法】、【職種の役割と連携】、【ACP の課題】に関する結果が得られた。

海外調査結果：英国のケント州の腎センターで看護師 1 名、マンチェスターの看護師 2 名、ロンドンソーシャルワーカー 2 名、英国の腎専門の大学教員 1 名からのインタビューを行った。その結果、英国では Informed Share Decision と ACP の概念が浸透しており、地域や医療施設の特徴を生かし、腎センター等を核に地域を包括する ACP とエンド・オブ・ライフケアの実践システムが創られていた。ACP の開始時期、タイミングの見極め、地域医療システムにおける情報の共有方法、ACP に関する医療者への教育、特にコミュニケーションスキルに関するトレーニングの必要性、などに関する現状と課題が明らかとなった。豪州では、3 名の医療者から協力を得た。多民族国家の特徴を踏まえて、患者の意思を言語化することの重要性と意思決定の意義が語られ、ACP については国家的な取り組みがなされているが臨床現場ではその認識や実践に関しての浸透度には、ばらつきがあり実践課題も多いという結果が得られた。

### (2) ACPに関する実態調査その2：国内の慢性疾患領域の専門家へのアンケート調査結果

国内の実態調査をもとに ACP の認識、実践の程度、困難さ、課題で構成する調査枠組みを検討した。全国の慢性疾患分野の専門家（専門医と認定看護師、専門看護師）合計 1876 名を対象に郵送法による質問紙調査を行った。アンケートの回収は、医師 137 名（回収率 16.5%）、看護職 639 名（回収率 83.4%）全体で 831 名（回収率 44.8%）であった。

#### ACP の認識

ACP の知識は、 $3.14 \pm 0.96$ （全体）、医師： $2.02 \pm 1.07$ 、看護職： $3.36 \pm 0.8$ 、と看護職の方が ACP の言葉への認識が高かった（P 値 0.00）。必要性への認識は全体で  $4.82 \pm 0.433$  と高かったが、実践に関しては  $2.26 \pm 0.8$  と低く、ACP の実践への認識はまだ低いことが示された。

#### 実践の困難さ

ACP 実践上の困難さは、「それぞれの人の考えが異なる場合に調整すること」（全体： $4.00 \pm 0.89$ 、医師： $4.05 \pm 0.88$ 、看護師： $3.99 \pm 0.89$ ）が最も高かった。医師の困難さでは、「非言語的な側面から思いを押し量ること」（全体： $3.85 \pm 0.88$ ）、「価値観や希望を表現してもらうこと」（全体： $3.45 \pm 0.93$ ）、「これからの治療や療養の場の話をするタイミングを計ること」（全体： $3.30 \pm 1.14$ ）が高かった。看護師の困難さでは、「これからの治療や療養の場の話をするタイミングを計ること」（全体： $3.75 \pm 1.02$ ）、「非言語的な側面から思いを押し量ること」（全体： $3.75 \pm 0.96$ ）、「予後・余命について話し合うこと」（全体： $3.71 \pm 1.01$ ）が高く、職種間で若干の相違がみられた。

#### 実践上の課題

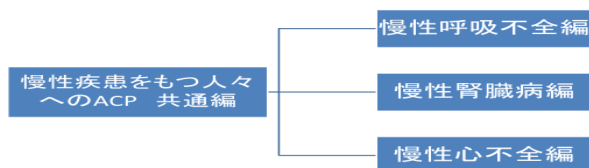
ACP の実践上の課題としては、「医療機関と地域（病院とクリニックなど）の連携が必要である」（全体： $4.70 \pm 0.53$ 、医師： $4.47 \pm 0.75$ 、看護師： $4.75 \pm 0.47$ ）、「専門職種間の連携が必要である」（全体： $4.66 \pm 0.59$ 、医師： $4.33 \pm 0.84$ 、看護師： $4.72 \pm 0.50$ ）、「慢性疾患をもつ患者、家族への ACP に関する医療者向けの教育が必要である」（全体： $4.59 \pm 0.65$ 、医師： $4.02 \pm 0.89$ 、看護師： $4.69 \pm 0.52$ ）の項目が上位で、看護師の方が課題認識が有意に高かった（ $p < 0.05$ ）。

### (3) ガイドブックの作成とケアモデルの構築

(1) (2) の調査結果から、慢性疾患における ACP の目的や意義、実践方法等を検討

し、呼吸不全、心不全、腎不全の3領域で活用できる実践ガイドブック（以下ガイドブックと略す）を作成した。下記に示すように、ACPの目的、基本的考え方、生を輝かせるためのACP、ACPとチーム医療等の内容で構成される共通編と、各疾患別の病いの経過に即した実践のタイミングと判断基準、留意点、多職種での実践と役割等の内容で構成される慢性呼吸不全編、慢性腎臓病編、慢性心不全編の3編からなるガイドブックを作成した。本ガイドブック案を元に、ACPの実践に関心が高い実践家（医師、看護職、理学療法士、心理療法士）計12名に、ガイドブックに関する意見やACPに関する意見等をインタビューにより収集した。さらに、これをもとに修正版ガイドブックを作成した。

#### ケアモデルに基づくガイドブックの作成



日本赤十字看護大学

#### (4) 修正版ガイドブックとケアモデル

修正版ガイドブックをもとに、ACPの実践事例や実践方法、ACPの考え方等について、専門家27名（医師、看護師等）へのインタビューを行った。インタビューデータの分析を踏まえて、ACPの実践のあり方に関する検討を行いケアモデルの構築を行った。その結果、慢性疾患患者、家族へのACPの基本的な考え方として「その人らしく最後まで生きることを支える実践」を中軸に、赤字で示す4つの実践要素と7つの実践の小テーマで構成されるケアモデルを構築した。専門家からのインタビュー結果から、実践での活用はもとより、臨床スタッフへの教育、患者や家族との対話促進の教材など、ガイドブックの多様な活用方法とその有用性が示唆された。

#### 【慢性疾患の患者、家族のためのケアモデル】



【3領域（慢性腎不全、慢性呼吸不全、慢性心不全）のガイドブック：各30頁程度の冊子として作成した】



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 田中 孝美, 田中 晶子, 殿城 友紀	4. 巻 39
2. 論文標題 慢性呼吸器疾患患者のアドバンス・ケア・プランニングを支える介入研究の文献レビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 10-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="https://doi.org/10.5630/jans.39.10">https://doi.org/10.5630/jans.39.10</a>	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 中村 光江、守田 美奈子、吉田 みつ子、本庄 恵子、酒井 千恵、田中 孝美、樋口 佳栄、田中 晶子、殿城 友紀
2. 発表標題 英国におけるアドバンス・ケア・プランニングの取組み
3. 学会等名 第12回日本慢性看護学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 守田 美奈子、本庄 恵子、吉田 みつ子、田中 孝美、中村 光江、樋口 佳栄、田中 晶子、殿城 友紀、酒井 千恵
2. 発表標題 慢性疾患医療におけるアドバンス・ケア・プランニングの実態：医師と看護師の比較（その1：認識の特性）
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 本庄 恵子、守田 美奈子、吉田 みつ子、田中 孝美、中村 光江、樋口 佳栄、田中 晶子、殿城 友紀、酒井 千恵
2. 発表標題 慢性疾患医療におけるアドバンス・ケア・プランニングの実態：医師と看護師の比較（その2：困難さ）
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 樋口 佳栄、守田 美奈子、本庄 恵子、吉田 みつ子、田中 孝美、中村 光江、田中 晶子、殿城 友紀、酒井 千恵
2. 発表標題 慢性疾患医療におけるアドバンス・ケア・プランニングの実態：医師と看護師の比較（その3：実践課題）
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuko YOSHIDA , Minako MORITA , Keiko HONJO , Takami TANAKA , Yoshie HIGUCHI , Yuuki TONOKI , Chie SAKAI , Mitsue NAKAMURA , Akiko TANAKA , Yukari SUMIYA
2. 発表標題 Opportunity to practice advance care planning (ACP) as regarded by nurses caring for people with chronic illnesses in Japan
3. 学会等名 7th ACP-I Conference ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsue NAKAMURA , Mitsuko YOSHIDA , Minako MORITA , Keiko HONJO , Takami TANAKA , Yoshie HIGUCHI , Yuuki TONOKI , Chie SAKAI , Akiko TANAKA , Yukari SUMIYA
2. 発表標題 Survey on awareness of the need for advance care planning (ACP) among medical service providers in the chronic illness field in Japan: From the results of a questionnaire survey conducted with doctors and nurses dealing with healthcare provision for renal, cardiac and respiratory insufficiency
3. 学会等名 22nd International Congress on Palliative Care ( 国際学会 )
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井 千恵、本庄 恵子、中村 光江、守田 美奈子、吉田 みつ子、田中 孝美、田中 晶子、樋口 佳栄、殿城 友紀
2. 発表標題 慢性腎不全のアドバンスケアプランニングに関する文献レビュー
3. 学会等名 第11回慢性看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中 孝美、田中 晶子、殿城 友紀、守田 美奈子、本庄 恵子、吉田 みつ子、中村 光江、樋口 佳栄、酒井 千恵
2. 発表標題 慢性呼吸器疾患のアドバンスケアプランニングに関する文献レビュー
3. 学会等名 第18回日本赤十字看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 樋口 佳栄、吉田 みつ子、守田 美奈子、本庄 恵子、田中 孝美、中村 光江、田中 晶子、殿城 友紀、酒井 千恵
2. 発表標題 Issues identified from nurses' narratives concerning providing support with advanced care planning (ACP) for chronic heart failure (CHF) patients
3. 学会等名 第21回 East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中村 光江、本庄 恵子、酒井 千恵、守田 美奈子、吉田 みつ子、田中 孝美、田中 晶子、樋口 佳栄、殿城 友紀
2. 発表標題 慢性腎不全患者のアドバンスケアプランニングの実践と課題－A 医師の経験から
3. 学会等名 第18回日本赤十字看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 守田 美奈子、中村 光江、本庄 恵子、吉田 みつ子、田中 孝美、樋口 佳栄、田中 晶子、殿城 友紀、酒井 千恵
2. 発表標題 日本型アドバンスケアプランニングの実践に関するケアモデルの基礎的検討
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 田中 晶子、田中 孝美、守田 美奈子、本庄 恵子、吉田 みつ子、中村 光江、樋口 佳栄、殿城 友紀、酒井 千恵
2. 発表標題 Advanced care planning (ACP) of people living with chronic respiratory disease (CRD): From nurses' narratives
3. 学会等名 第21回 East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井 千恵、本庄 恵子、中村 光江、守田 美奈子、吉田 みつ子、田中 孝美、樋口 佳栄、殿城 友紀、田中 晶子
2. 発表標題 Advanced care planning (ACP) for persons living with chronic renal failure (CRF): From the nurses' narratives
3. 学会等名 第21回 East Asian Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mitsuko YOSHIDA, Minako MORITA, Keiko HONJO, Takami TANAKA, Yoshie HIGUCHI, Yuuki TONOKI, Chie SAKAI, Mitsue NAKAMURA
2. 発表標題 Opportunity to practice advance care planning (ACP) as regarded by nurses caring for people with chronic illnesses in Japan
3. 学会等名 7th ACP-I Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中 孝美、吉田 みつ子、守田 美奈子、本庄 恵子、樋口 佳栄、殿城 友紀、酒井 千恵、中村 光江、田中 晶子、住谷 ゆかり
2. 発表標題 アドバンス・ケア・プランニングの実践で看護師が慢性病者・家族と関わるうえでの困難 全国質問紙調査の質的分析結果からの報告
3. 学会等名 第20回日本赤十字看護学会学術集会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 吉田 みつ子、田中 孝美、守田 美奈子、本庄 恵子、樋口 佳栄、殿城 友紀、酒井 千恵、中村 光江、田中 晶子、住谷 ゆかり、
2. 発表標題 慢性病者のアドバンス・ケア・プランニングを多職種で実践することへの医療者の認識 全国質問紙調査の質的分析結果からの報告
3. 学会等名 第20回日本赤十字看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mitsue NAKAMURA , Mitsuko YOSHIDA , Minako MORITA , Keiko HONJO , Takami TANAKA , Yoshie HIGUCHI , Yuuki TONOKI , Chie SAKAI
2. 発表標題 Survey on awareness of the need for advance care planning (ACP) among Japanese doctors and nurses involved in chronic heart failure
3. 学会等名 the 16th World Congress of the European Association for Palliative Care (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuuki TONOKI , Keiko HONJO , Minako MORITA , Mitsuko YOSHIDA , Takami TANAKA , Yoshie HIGUCHI
2. 発表標題 Timing to start advance care planning (ACP) as regarded by nurses caring for people with chronic illnesses in Japan
3. 学会等名 ICN Congress 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	樋口 佳栄  (HIGUCHI Yoshie)  (00460098)	日本赤十字看護大学・看護学部・准教授    (32693)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 孝美 (TANAKA Takami)  (60336716)	日本赤十字看護大学・看護学部・准教授  (32693)	
研究分担者	本庄 恵子 (HONJO Keiko)  (70318872)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授  (32693)	
研究分担者	吉田 みつ子 (YOSHIDA Mitsuko)  (80308288)	日本赤十字看護大学・看護学部・教授  (32693)	
研究分担者	中村 光江 (NAKANURA Mitsue)  (80381466)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授  (37123)	
研究協力者	住谷 ゆかり (SUMIYA Yukari)  (90554030)	日本赤十字看護大学・看護学部・講師  (32693)	
研究協力者	殿城 友紀 (TONOKI Yuuki)  (60440252)	日本赤十字看護大学・看護学部・講師  (32693)	
研究協力者	酒井 知恵 (SAKAI Chie)  (80785395)	日本赤十字看護大学・看護学部・助教  (32693)	
研究協力者	田中 晶子 (TANAKA Akiko)  (90424275)	昭和大学・保健医療学部・教授  (32622)	